研究テーマ　「主題」に根ざした図画工作科の題材構想

所属　共同教員養成課程

講師 有川 貴子
https://researchmap.jp/arikawa.art-edu

研究分野	美術教育
キーワード	美術教育、図画工作科、教材開発、「主題」、デザイン思考

研究室URL：

研究の背景および目的



　情報、生成技術の革新や一般利用が進む現代にあって、美術教育、特に図画工作科の学びにおける表現活動の指導観は、再考すべき時期を迎えている。現在学習指導要領上では第５学年及び第６学年から明確に求められている「主題」は、これからの表現活動において特に重視すべき点だと考えている。
　そのため研究では、児童の「主題」に根ざした題材構想のあり方について、教材開発の視点から探究する。これまでの教材活用の慣習に捉われない活用について考察することで、表現活動の指導観や教師の役割について明らかにすることを目的としている。

■主な研究内容

（現在研究・執筆中）
・「言語芸術教材の詩的使用による描画の「主題」の発想への効果
　－第５学年及び第６学年の詩教材を用いた題材における学習プロセスの分析から－」

（これまでの主な研究(実践研究含む)）
・「思考過程の『内化』『外化』から捉える図画工作科」

・「描画活動での詩や音を教材活用することの効果」

・「ワヤン・クリッの鑑賞活動や言語芸術（児童文学）教材を基とした表現活動の展開」

・「『身の回りの造形』としてのファッションを教材とした表現活動の展開」

・「『ようすをあらわすことば』を基にした児童の表現活動の展開」






期待される効果・応用分野

　「主題」に根ざした題材構想の在り方を探究することは、児童が表現することの本来の価値を体験し主体性を喚起できるだけでなく、他者の表現を受容し、生涯にわたって自他の表現を楽しむ素地となる。
　また、幼稚園での表現領域や中学校での美術科の学びとも連携をはかっていくことで、さらに効果が期待できる。
　さらにこの研究では、理論的枠組みとしてデザイン思考基づくモデル(DoubleDiamondModel)を採用している。これはSTEAM教育において創造的思考を司どり、「客観性」や「理論」と結びついて新たな視点を与えるものである。そのため、ゆくゆくは科学技術分野や人材育成への応用も考えられる。

■共同研究・特許など（主な書籍）

・「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（国立教育政策研究所教育課程研究センター）

・令和６年度版文部科学省検定教科用図書（教科書）・小学校図画工作（日本文教出版出版）

富山大学研究者プロファイルPure URL：
https://u-toyama.elsevierpure.com/ja/persons/takako-arikawa/